

映画

首相官邸の前で

Tell the Prime Minister

山形国際ドキュメンタリー映画祭
ともにある Cinema with Us 2015
正式出品

& 小熊英二氏トーク

2012年夏、東京。約20万の人びとが、首相官邸前を埋めた。NYの「ウォール街占拠」の翌年、香港の「雨傘革命」の2年前のことだった。

しかしこの運動は、その全貌が報道されることも、世界に知られることもなかった。

人びとが集まったのは、福島第一原発事故後の、原発政策に抗議するためだった。事故前はまったく別々の立場にいた8人が、危機と変転を経て、やがて首相官邸前という一つの場につどう。彼らに唯一共通していた言葉は、「脱原発」と「民主主義の危機」だった――。

人々の力が日本を変えた、希望の瞬間を記録した映像を手がかりに、監督である社会学者小熊英二氏と「民主主義の再建」について考えていく。



2016年 5月25日(水)
18:30～21:30 (開場 18:15)

会場：武蔵野スイングホール
前売り：1000円 当日：1200円
(高校生以下・障がい者無料)

主催：むさしの憲法市民フォーラム
(連絡先：西村 0422-46-7614)





Musashino Citizen's Forum on The Constitution

第20回むさしの憲法市民フォーラム

映画 首相官邸の前で & 小熊英二氏トーク



撮影 生津勝隆

小熊英二(おぐま えいじ)氏

【プロフィール】 1962年東京都生まれ。出版社での勤務を経て、慶應義塾大学総合政策学部教授。福島原発事故後、積極的に脱原発運動にかかわり、メディア上での発言も多い。

2012年の著作『社会を変えるには』で新書大賞受賞。他の著作に『単一民族神話の起源』(サントリー学芸賞受賞)、『<民主>と<愛国>』(大仏次郎論壇賞、毎日出版文化賞)、『1968』(角川財団学芸賞)など。

【メッセージ】 私は、この出来事を記録したいと思った。自分は歴史家であり、社会学者だ。いま自分がやるべきことは何かといえば、これを記録し、後世に残すことだと思った。

映画を撮ったことはなかった。映画作りに関心を持ったこともなかった。しかし過去の資料の断片を集めて、一つの世界を織りあげることが、これまでの著作でやってきた。扱うことになる対象が、文字であるか映像であるかは、このさい問題ではなかった。

いうまでもないが、一人で作った作品ではない。同時代に現場を撮影していた人びと、インタビューに応じてくれた人びとが、すべて無償で協力してくれた。

なにより、この映画の主演は、映っている人びとすべてだ。その人びとは、性別も世代も、地位も国籍も、出身地も志向もばらばらだ。そうした人びとが、一つの場につどう姿は稀有のことであると同時に、力強く、美しいと思った。

そうした奇跡のような瞬間は、一つの国や社会にめったに訪れるものではない。私は歴史家だから、そのことを知っている。私がやったこと、やろうとしたことは、そのような瞬間を記録したという、ただそれだけにすぎない。

いろいろな見方のできる映画だと思う。見た後で、隣の人と率直な感想を話しあってほしい。映画に意味を与えるのは観客であり、その集合体としての社会である。そこから、あなたにとって、また社会にとって、新しいことが生まれるはずだ。

【むさしの憲法市民フォーラムとは】「むさしの憲法市民フォーラム」は、1997年以来、毎年5月に市民の手づくりによる憲法記念行事を企画・実行してきたグループです。また、政治や社会の情勢に合わせ、憲法に関わる学習会やニュースの発行など様々な取り組みを行っています。

「自分の在任中に憲法改正を実現する」と公言してはばからない安倍首相の下で行われる、今年夏の参議院選挙では、「憲法」が大きな争点となることは間違いないでしょう。

十分な議論も行わずに、雰囲気だけで改憲を行おうとする危険な流れに対して、市民一人ひとり、国民一人ひとりが、しっかりと憲法への意識を持っていくことが大切です。私たちは武蔵野から声を上げ、憲法改悪に反対する活動を広く展開していきます。(ホームページ <http://kenpou-forum.jp/>)